

第3回総会開催

2020.10.12

会場：上伊那教育会館講堂



<第3回総会 次第> 16:15開会

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 正副議長選出
- 4 報告
 - (1) 信濃教育会常任委員会 報告
 - (2) 信濃教育会臨時総会 報告
 - (3) 郷土研究部専門委員会の研究調査等の助成に関する内規について
 - (4) 事務局職員服務規程の改定について
 - (5) 上伊那教育会館貸与規定の改定について
 - (6) 財務の状況について
- 5 協議
 - (1) 教育会各事業の中間報告
 - ① 職能研修事業
 - ② 児童生徒育成事業
 - ③ 郷土研究事業
 - ④ 不動産貸与事業、会員共済事業、視察派遣・広報事業
 - (2) 令和2年度9月以降の教育会事業について
 - (3) 少年の塔周辺整備作業・少年の塔慰霊祭の報告
- 6 諸連絡
 - (1) 文学講演会について
 - (2) 令和2年度に向けた上伊那教育会諸事業の改善・充実に関する意見・要望等について
- 7 退任会長・理事・監事挨拶，感謝状贈呈
- 8 閉会の言葉

事業の再開と

「発見・出会い 新たな『わたし』」の実現を

上伊那教育会 会長 小澤 徳夫

8月いっぱいの事業は中止とした今年度の教育会ですが、その影響は9月から再開した活動にも色濃く残っています。県外教育関係機関研修が中止になったために、その報告座談会は行えません。人権講演会は準備が整わずに開催を見送りました。郡市連合音楽会も通常の音楽の授業が行えないために中止となっています。

そんな中ではありますが、10月17日（土）には文学講演会を開催いたします。人数は制限されますが、今年度になって初めての会員が一堂に会する事業となります。また、教育課程研究協議会が予定されていた10月7日（水）を中心にして、教科部各教科委員会は、授業公開の参観に出かけ、指導主事より伝達講習を受けています。指導いただいた点は、ホームページや『教科部研究のまとめ』として発信し、会員の授業力向上に役立てていきたいと考えています。

郷土研究部専門委員会も、個人研究に加えて、班としてできる範囲での活動を始めています。

10月7日には、少年の塔慰霊祭を実施しました。本来は8月の事業のため中止ということですが、戦後75年の区切りであるということや、教育会として負の遺産を背負うという覚悟のために、参加人数を絞って開催しました。当日は、教育会理事・監事・幹事15名で、上伊那から満蒙開拓青少年義勇軍として参加し、志半ばで荒野に散った90余名の御霊に哀悼の意を表してまいりました。

こうした事業を再開したばかりですが、今年度も後半戦となりました。事業に参加する、関わることをとおして、スローガン「発見・出会い 新たな『わたし』」の実現を目指していきたいと思えます。



総会では、まず正副議長の選出が行われ、議長に岡村真弓代議員（長谷小学校）、副議長に渡邊由紀代議員（赤穂南小）が選出されました。その後、各種報告と教育会の各事業の中間報告が協議されました。

コロナ禍で実施できなかった事業、延期した事業、感染症対策を講じながら実施してきた事業について、各部長を務める常任委員、事務局長より説明を行いました。詳細は各校に配布された総会資料ならびに中間事業報告をご覧ください。小澤教育会長の思いを受け止め、後半の事業の実施にご理解とご協力をお願いします。



浦山 研修部長

教科ごとに教育課程研究伝達講習会を実施。三大研修については、哲学研修は全てを中止。文学研修会は講演会のみ実施。授業研修会は例年と異なるが授業を通じて子どもの姿から学び合えるように松木先生も参加して実施する。



高嶋 教科部長

感染症拡大防止のため中止した事業もあるが、上伊那文集の発行、海への旅、仙丈ヶ岳登山案内の編集、県児童生徒美術展、作品集DVD作成、科学作品Web展等、児童生徒の学習成果の発表や競技会、資料冊子の編集を実施する。



山内 郷土研究部長

研究調査・資料収集事業について、9月以降研究委員会、専門委員会の研究調査を開始している。それまでは個人研究で進めてきている。郷土研究講習会、郷土研究発表会は中止。研究紀要は可能な範囲でまとめる。



飯澤 事務局長

不動産貸与事業、会員共済事業、視察派遣・広報事業について、規定や内規に基づき実施している。視察派遣は中止。会報を年3回発行していく。リーフレットは今年度から3年に1度印刷し段階的に教職員へ配布を行う。

上伊那教育会に功績を残された先生方へ感謝状を贈呈しました



林 前会長

例年、総研修会連絡会で教育会前会長・前理事・前監事の先生に感謝状および記念品をお渡ししていますが、コロナ禍のため本総会でお渡ししました。4名の先生方には改めて教育会の諸事業にご尽力いただいたことに感謝申し上げます。

林 武司前会長には、業務執行理事・副会長、代表理事・会長として2年間理事をお勤めいただき、今年度も引き続き理事をお勤めいただいています。昨年度は会長として、「自ら求め 共にあゆむ」をテーマに、会員の研修意欲を高めていただくと共に、委員数の2割削減を実現されるなど、常に会員にとってより良い教育会を求められていました。また、信濃教育会総集会上伊那大会を大成功に導いてくださいました。



小林 前理事

小林 克彦前理事には、平成27年度に副会長を、平成28年度に会長をお勤めいただき、理事として平成29年・30年・令和元年の3年間お勤めいただきました。会長時には「出会う かかわる つなぐ」をテーマとされました。何回にもわたる教育事務所との折衝の結果、教育会の研修事業を「ライフステージに応じた研修」として位置づけてくださいました。

矢澤 淳前理事には、平成28年度に副会長を、平成29年度に会長をお勤めいただき、理事として平成30年・令和元年の2年間お勤めいただきました。会長時には「一步前進」をテーマとされました。少年の塔整備作業に代議員ばかりでなく、一般会員にも参加の輪を広げたり、上伊那誌自然篇改定増補版の刊行に向けご尽力いただいたりしました。



矢澤 前理事

唐澤 豊前監事には、当日はご欠席されましたが、平成28年度から令和元年度までの4年間監事をお勤めいただきました。その間、財務の健全化に向けて、教育会のあり方について大局的に見て、適切なお助言をいただきました。

閉会挨拶

先日、教育会の仰望の歌を作曲された唐沢史比古先生とお話する機会がありました。そこで、小中学校の音楽の授業で、歌唱指導や音楽会の合唱をどうしているか、という話になりました。全く歌わない学校もあれば、様々に感染対策を工夫してががん歌っている学校もある。唐沢先生は、校長先生や音楽科の先生方のお考えもあると思うが、歌はぜひ歌わせて欲しい。歌を歌わないと子どもは育たなくなる、と力を込めておっしゃっていました。そのためには、全職員が保護者や地域への説明ができること、感染対策を万全にしてやること、が大切であり、各校で工夫をしてぜひ実施して欲しい、とおっしゃっていました。

音楽の歌唱指導ばかりでなく、例年行われてきた様々な学校行事が中止又は縮小されています。歌わないことで子どもが育たないと唐沢先生が断言されたと同じことは、全ての学校行事に当てはまると思います。同時に、教育会事業にも言えるのではないのでしょうか。すなわち、教育会事業が行われなければ私たち会員は育たない、と。

9月以降、少しずつではありますが、感染対策を講じた上でようやく教育会事業が動き出しています。すでに今年も半分が過ぎました。まだ残り半分あります。代議員の先生方には、各学校で今後の教育会事業にできる限り会員の先生方が参加できますよう、呼びかけや参加への働きかけ等のお力添えをお願いしたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

上伊那教育会 副会長 原 文章